

行政視察報告

テーマ『南アルプス世界自然遺産登録
推進に向けて』

期 日 平成21年7月2日～3日

視察先 長野県大鹿村／山梨県早川町

南アルプス(中央構造線エリア)ジオパークの状況把握と、南アルプス世界自然遺産登録へ向けて共に活動する市町村と情報を共有したいとの思いで、2ヶ所の視察研修を行いました。(抜粋)

—— 南アルプス世界自然遺産登録推進長野県連絡協議会では
世界自然遺産とジオパークは補い合うものとして位置付けています ——

貴重な地球活動の遺産(地球の歴史の痕跡や証拠)が富士見町にもたくさんあります。南アルプス(中央構造線エリア)ジオパークの範囲の中の ①激しい隆起による南アルプス北東縁の急崖(井戸尻遺跡から) ②仏像構造線と石灰岩(釜無・立場川橋から) ③横ずれ断層が造っている変位丘陵列(若宮、大平、御射山神戸) ④遠洋性岩石でできている入笠山と法華道などです。

富士見町では、貴重な資産を持ちながらその利活用は、未だに進んでいません。大鹿村の博物館・山梨県側はどのような状況でしょうか…。

〔大鹿村中央構造線博物館〕

大鹿村中央構造線博物館は、中央構造線のほぼ真上に建設されていて、露頭の剥ぎ取り標本、岩石の大型切断研磨標本200点、南アルプス1万分の1地形地質模型等の展示をしています。大鹿村の南北25Km・東西15Kmを丸ごと博物館として目で見ることができる地形・地質の観察ガイドをしています。博物館の学芸員である河本和朗氏によると、地域の地質研究・教育の拠点としての機能を果たすことを、大きな役割として取り組んでいるとのこと。



河本学芸員より中央構造線の解説を受ける

南アルプス(中央構造線エリア)ジオパークは、地球の歴史の見本として、過去から現在の海洋プレート沈み込み帯の諸現象が顕著で今でも活動的な場所であり、今後この貴重な資源の活用や国内外に向けての情報発信を求められているとのことですが、多くの露頭で整備が遅れており、人々の関心はまだ薄いのが実情です。

視察先のジオパークは、沈み込みプレート(海洋プレート)の上に乗っている堆積物を常盤プレート(たとえば日本列島)へ削り上げて作られた(南アルプス)付加体が直接見られる地域であり、石灰岩が出る山は、約3億年前から海の底にあった堆積物が山になったという証拠が見られるゆえんでもあります。

〔山梨県早川町 新倉路頭〕



早川町新倉路頭の見学

山梨県早川町の新倉路頭は、かつての衝突の境界である糸魚川-静岡構造線上にあります。

海底山脈の多重衝突が起きた場所として、弧を描いている伊豆-小笠原島の構造線、四万十帯瀬戸川層群との間を糸魚川-静岡構造線が走っており、三層の地質の違いの現場を直接見られるところとして有名です。

(副議長 小林 市子)